

かゑらじと かねて思へハ 梓弓  
なき数に入る 名をぞとどむる  
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第38号

平成28年12月13日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

大阪府内に設置された楠像は76校・77体

## 星田小学校(交野市)に、今も残る楠正行石像

背景に、南朝に与した交野郷土や寺院衆徒の存在

### 二宮金次郎石像も建つ星田小学校

交野市の星田小学校に楠正行の石像が建っている、との情報を得て、早速、伺った。

ご案内していただいた北教頭先生のお話では、現在、学校に残る資料の中に、楠正行石像建立に係るものは、何も残っていないとのこと。

学校沿革史によると、昭和16年4月に、大阪府北河内郡星田国民学校と改称しており、この時、紀元2600年記念に合わせて設置されたものと思われる。総高さ約70センチ、台座には「紀元二千六百一年」と刻まれている。

また建立された場所であるが、本来校内のどこに設置されたのかは分かっていない。

星田小学校は、昭和31年、南側3教室の移転、昭和38年、鉄筋普通4教室竣工、昭和41年、屋内体育館竣工、昭和45年、新校舎(第1期工事)完成、昭和47年、新校舎(第2期工事)完成、昭和55年、プール竣工と、度々大規模な新築工事・改修を加えてきたことから、これらの工事の進捗に合わせて、いつの時期かに現在の位置に移されたのではないかとと思われる。

現在、楠正行石像は、正門向かって左側の分離スペースに南向きに建っている。この場所は、普段施錠しており、学校行事等の際に、保護者等の自転車置き場として開放するなどの利用となっているので、子ども達は自由

に立ち入れないとのこと。

なお、同校には二宮金次郎石像もあり、正門向かって左側、花壇の中に建っている、この像は子ども達が登校時・下校時等に見ることができる。



### 籠谷次郎論文に見る楠木像

大阪府下に設置された楠木正成・正行像については、籠谷次郎「二宮金次郎像と楠木正成・正行像」論文が詳しいので、以下同論文による。

### 正成像、郵便はがきにも

正成像の多くは、鎧・兜を身に着け、右手で手綱を引く馬上の姿である。同姿は、別子銅山開業250年を記念して住友吉右衛門が東京美術学校に製作を依頼し、高村光雲らによってつくられ、1900年、宮城前馬場先門に建てられた正成像を模したものである。

構図は、考案者の高村光雲によると、元弘3年(1333)後醍醐天皇が隠岐を脱出して摂津兵庫に「還幸」の際、その道筋まで出迎え「鳳凰の方に向かい、右手の手綱を叩いて、勢い切った駒の足搔きを留めつつ、やや頭を下げて拝せんとするところ」と云われる。

この像の図は、1930年8月には「郵便はがき」の図に登場し、45年には台湾総督府・朝鮮総督府発行の「郵便はがき」にも登場した。

(写真：昭和5年発行 郵便はがき (愛称 楠公はがき))

## 大阪府の楠木像

1930年に中河内郡繩手村の往生院に楠木正行像が建てられ、34年に南河内郡川上村の観心寺に正成像が建てられた。つづいて36年に泉北郡浜寺町の浜寺公園に正成像、37年に北河内郡飯盛山頂に正行像、41年に三島郡島本町青葉公園に正成像が建てられた。

### 楠木正成・正行像

楠木像には、正成像のほか、楠公父子訣別座像、正行像等がある。正成像には座像もある。

父子訣別像は、延元元年(1336)、正成が死を覚悟して撰津湊川に赴く途中、撰津桜井の駅で後を託して正行を郷里河内に帰すという「太平記」が記す「桜井の別れ」の場面で、正成と正行が対座する像である。

正行像は、正平2年(1347)、正行が翌年の河内四條畷合戦で知られる一連の戦いの出陣に際し大和吉野の行宮に後村上天皇を訪れた時、如意輪堂の壁板に辞世の歌と一族の名を書き記したという故事に基づき、その文字を認める立像である。

父子訣別の図は江戸時代から描かれており、後者の正行の姿も明治期から教科書に描かれた図である。

調査は、1944年当時、旧大阪市を除く大阪府の国民学校312校の内、単独の高等科の国民学校13校を除く299校を対象として行われ、結果は77体(設置校は76校)であった。

### 交野町略史に見る正行像建立の背景

では、何故、星田小学校に正行像が建てられ、今日に至るまで残ってきたのか。その背景を考えてみよう。

### 荒坂山の戦いに参戦・活躍した交野郷土

交野市史復刻編(交野町略史)第三節、南北朝時代を見ると、「官方と武家方の争い」に以下の記述がある。

— この間、楠木家では、正成の湊川討死の後、正行立って官方のために働いたが、正平3年(1348)四條畷で戦死し、その弟正儀は後村上天皇のために各地で戦ったが、正平7年(1352)天皇が吉野から出て、八幡に進まれたので、これを守って荒坂山(枚方市長尾)で足利軍と激戦を交えた。この頃、交野地方の諸郷土や寺院衆徒等は官方に味方したのである。

「交野郷土と寺院衆徒」には、以下記されている。

— 当時の交野地方で官方に心を寄せた、延暦寺の下寺だった岩倉開元寺、およびかつて龜山天皇(後醍醐天皇の祖父)の恩恵を受けた獅子窟寺の衆徒たち、津田城に

拠る中原一族や倉治の郷土、私部城の安見刑部一族、星田城の和田八郎助忠及び平井兵庫頭の一党は、山城天王山の城に立て籠もった普賢寺土佐の守の誘いを受けて、遂に官方に一味すべく活動した。(『京都府綴喜郡誌])

郡津の郷土今堀新左衛門氏久は、応安4年(北朝年号

1371)楠木家に味方し、交野郡郡津にその館をもうけて住んだ。この屋敷内に柏の大き木があったので、抱柏(かかえがし)の紋をその旗印として、出陣したという。その記録が簡略で詳細は分からないが、楠木正儀に属したようで、正儀は一時北朝に降ったこともあるが、永徳2年(北朝年号1382)再び南朝方に帰参し、南河内の平尾で北朝方の山名氏清と

戦った。この時今堀氏久は、楠木方として戦に加わり、ついに討死した(「今堀家系譜」)。

「正平7年の交野の郷軍」には、以下の記述。

正平7年(1352)・・・後村上天皇は良い機会として、賀名生から住吉、そして八幡に行幸せられた。楠等の南軍は京都を急襲し、北朝方の三上皇を捕えて、金剛山の山奥へ幽閉した。將軍義詮は一時近江へ逃げたが、そこで兵を整え、大挙して京都に引き返し、八幡山の攻撃にかかった。

・・・官方にとって、この糧道を絶たれることは、最も痛手だったから、洞ヶ峠の東にあたる荒坂山(枚方市長尾と京都府の堺)の断崖に待ち受けて、これを防ぎとめることとした。これに参加した官方は、楠木正儀・和田正忠等三千余人だったが、その中には南山城の郷軍や交野地方の郷土がいた。

### 南朝に与した交野郷土の歴史を物語る石像

以上、籠谷論文と交野町略史によると、次のように言えるのではないかな。

大阪府下(除く大阪市)の学校に設置された楠木像(正成像・正行像・父子訣別座像等)は、76校、77体に上り、内、正行像は柏原校、玉川校、星田校の3体が確認されており、現在、現存するのは星田校の石像のみである。

交野市域は、正平7年の荒坂山の戦いで楠木正儀に与して官軍として戦い、長慶天皇ゆかりの獅子窟寺があるなど、南朝に連なる歴史が残ることから、大阪府下の学校での楠木像の建立気運と呼応して、紀元2600年を記念して、昭和16年(1941・紀元2601年)、正行像が設置されたのではないかな。

これらの背景を考えると、星田小学校に残る楠正行石像は、交野の郷土や寺院衆徒らを中心に交野の人々が、南朝に与するその歴史を刻んでいたことを示すものとして、大切に引き継がれてきたのではないかな。

正行の頭章につながることを期待したい。

(文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭)

